

私は日本共産党を代表しまして、陳情第7号加齢性難聴者の補聴器購入に対する助成制度の創設を求める陳情に賛成の立場で討論いたします。

野田市の場合は、身体障害者手帳の交付を受けた方を対象として補装具の支給制度が整備されていることから、新たな制度創設は考えていないとのことでした。

しかし、現実には年を重ねるとともに、聞こえづらくなることはどの人でもありうることではないでしょうか。ましてやマスク生活の現在です。なおさら聞こえづらくなるのは当然であり、聞こえづらいがためにマスクをずらすことや、会話の中で近づくことも行ってしまいがちな動作です。さらには、聞こえづらいことによる交通事故。また、人との会話が困難になるため、孤立しがちな生活を送ってしまうこともあり得ます。

この陳情には重度の難聴（70デシベル以上）にならないと補聴器購入に対する公的給付が受けられないこと、自覚しにくい加齢性難聴者への早期対応の必要性から補聴器購入に対する助成制度の創設、及び高齢者の特定健診の項目に聴力検査を加えることを求めています。

委員会では、この制度を導入している自治体は、高齢化が野田市ほど進んでいないので予算がさほどかからない等々の討論がございましたが、導入自治体より高齢化が進んでいると捉えるのであれば、なおさらのこと行うべき施策ではないでしょうか。

以上のことから陳情第7号加齢性難聴者の補聴器購入に対する助成制度の創設を求める陳情に賛成といたします。